



大好き！絵本

初瀬 恵美



『ちいさなほしのものがたり』
文：リチャード・リトルデール
絵：ドゥブラヴカ・コロノヴィッチ
出版社：サンパウロ

イエス様のお誕生をお祝いするクリスマスが近づいてきました。保育園では、子どもたちが、お家のかたにはじめてのクリスマス(イエス様のお誕生)を伝える聖劇にも取り組んでいます。

今月は、そのイエス様のお誕生を「ちいさなほし」の視点から描いた絵本『ちいさなほしのものがたり』を紹介したいと思います。

よぞらのほしたちは どれも おなじように みえます。
このほんはそのなかでも いちばん ちいさな ほしのおはなしです。
そのちいさなほしは そんなにあかるくもないし
びかびか かがやいても いませんでした。

その小さな星に神様はお願いをしました。

「こんやわたしのこがうまれます」「そのこは おうさまの きゅうでんや おかねもちの いえではなくて
どうぶつたちがいる くらいちいさな うまごやでうまれます。だからそのこを あなたのひかりで てらしてく
ださい」

小さな星は神様から、とても大切なお願いをされて嬉しくてたまりませんでした。そして、金色のしっぽを輝かせ、赤ちゃんイエス様のところまで出かけ、明るく照らしました。その光に導かれて、羊飼いや博士たちが、イエス様のところへたどり着くことができました。博士たちは、小さな星に感謝して、お礼も言ってくれました。

小さな星は、神様の願いを立派に果たすと、また、前のように静かな光に戻りました。以前は、淋しそうにポツンと静かに小さく光っているだけの星でしたが、もう小さくても気にならなくなりました。だって、神様が小さな星を選んで、大切な役目をくださったと分かったからです。

今月は、できるだけ原文も載せてご紹介してみました。最初に小さな星が抱えていた孤独や自分を卑下する気持ちは誰もが抱えてしまう可能性がある気持ちのような気がしました。だからこそ、その星に大役をお願いされた神様や、そのことにより大きく変化する小さな星の心の動きが、私の心には大きく響くものがありました。少しでも多くの方に読んでいただきたいので この絵本は、めだか組さんの絵本回覧でも回していきます。楽しみにしててください。

誕生日おめでとう

